

本誌は、県民の皆様には山梨県子ども読書支援センターのことをより深く知っていただくため、当センターの事業や活動内容について情報発信するものです。

>>児童青少年サービス講座中級編(第2回、第3回)を実施しました。

子どもの読書活動推進にあたり、専門的助言や技術的な指導を行う人材を育成するための連続講座「児童青少年サービス講座中級編」の第2回、第3回を開催しました。

第2回は、平成26年8月29日(金)に「書架と蔵書構成を見直す」と題して、浦安市立中央図書館の伊藤明美氏にご講義いただきました。

まず始めに、浦安市の現況や浦安市立図書館の児童サービスについてのお話がありました。浦安市立図書館では、全職員を5つのグループ(分野)に分けて選書から廃棄までを行っているのが印象的でした。その後、蔵書構成についての講義がありました。選書・蔵書構成・サービスは一体のものであり、本を選んで終わりではなく、本を使われるようにすること、そして、使われるようになったら検証をする必要があるとのことでした。また、子どもの本は新しいものばかりにとらわれる必要はなく、核となる基本図書はいつでも手に取れるようにしておくことが大事であると話されました。選書のチェックポイントとして、フィクションについては一読したときの印象、価値や有用性、文学の基準に当てはめた本の質などはどうか、また、ノンフィクションについては主題や書き方、著者について、索引や図表、付録などの物理的特質はどうかなど判断基準についてのお話をいただきました。選書のお話が出たところで、グループに分かれて与えられたテーマに合う本を予算内で書架から選んでくる、という演習を行いました。各グループが選んだ本を発表し、それぞれについて講師からコメントをいただきました。その後もう一度講義に戻り、選書ツールの紹介や、画像による本が生きる書架づくりの紹介など、具体的で大変わかりやすいご講義をいただきました。

受講者からは「演習後の講師のコメントが参考になった」等の感想が寄せられ、グループ演習と具体的なアドバイスが大変勉強になったようです。



第3回は、平成26年9月9日(火)に「学校図書館の教育実践—公共図書館との新たな協力と連携も含めて」と題して、東京学芸大学附属小金井小学校の中山美由紀氏にご講義いただきました。

東京学芸大学学校図書館運営専門委員会が管理・運営をしている「先生のための授業に役立つ学校図書館活用データベース」を中心に、先生との連携・協力による学校図書館を活用した多くの実践事例などをご紹介いただきました。具体的には、図書館や情報の使い方について小学校6年間でどのように学ばせているのか、調べ学習はどのようなステップでさせているのか、授業での実践はどのようなものがあつたのかなど、また、蔵書はどのように構築していったのか、特別なニーズを抱える子どもたちへの支援はどのようにしているのかなどについて、多くの画像と共にご紹介いただきました。先生方との協力が必要不可欠であることや、教科書の内容を把握しておくことも重要とのことでした。



また、公共図書館、類縁機関やボランティア、地域と連携・協力していくことの大切さについても熱くお話しくださいました。

最後の質疑応答では「学校図書館を有効に活用した事例を紹介していただいたが、司書が一人でやるのは難しい。どのようにして実践していったのか」などが話題に上がりました。最後に、受講者全員が講義を聴いて実践してみたいこと、講義で気になった言葉を付箋紙に記入し、ホワイトボードに貼り付けて終了しました。

受講者からは「司書が授業に積極的に関わっている事例を教えてください勉強になった」「公共図書館員だが、データベースを職員に紹介し、学校支援の拡充を考えていきたい」といった感想が寄せられ、ふだんの業務に取り入れていきたいという思いを強くしたようです。

>>8月～9月の講師派遣状況

8月～9月に講師依頼を受け対応した研修会の概要を紹介します。

・9月24日（木）河口湖畔教育協議会 学校図書館部会 学習会

テーマ「アニメーションについて」

小立小学校で開催された、富士河口湖町内の小中学校の図書館主任及び、司書の皆さんを対象とした学習会でした。アニメーションの理論を説明し、実際に『ランパンパン』という絵本でアニメーションを行いました。今回は「聴いたとおりにします」という作戦を取り上げました。体を動かして、注意深く聴く力を楽しく身につけることを目的にしたアニメーションで、実演後は、行う際のポイントや注意点を交えて説明しました。

>>夏休み自由研究・工作おたすけ教室を開催しました。

平成26年8月20日（水）21日（木）の2日間、子どもたちが情報の調べ方や活用する能力を身につけることを目的に、「夏休み自由研究・工作おたすけ教室」を開催しました。富士山科学研究所や工業技術センター、県立高校、県立博物館、県立考古博物館の職員に協力を仰ぎ、各分野の専門家を招いて相談窓口を設置しました。参加者は、自由研究や工作を行う際のテーマの選び方や進め方についてアドバイスを受けました。



相談内容は身近な科学の実験や、生き物の体のしくみなど理科に関するものが多く、また歴史に関する相談窓口では、職員が博物館より持参した古代の道具や石器の実物なども見る事ができました。各窓口では調べものに役立てていただけるよう、パスファインダー（あるテーマに関する情報の探し方や調べ方をまとめた手引き）も配布しました。

また、専門家の職員から受けたアドバイスをもとに、知りたい情報がより詳しく書かれている本を探すため、図書館職員が図書館の本の並び方や、資料検索端末の使い方など、図書館での調べ方のコツを説明しました。参加者の中には、自分の自由研究を持ち込んで、さらに内容を深めたり他のテーマと関連づけて興味を広げる姿も見られました。

子どもや保護者からは、「先生がやさしくて、分かりやすく楽しく学べた」「自分の考えていた結果をさらにふくらませて考えることができた」などの感想が寄せられました。調べる場としての図書館の使い方を知り、活用してもらえる良い機会になったと思います。